

生を享けてより二十数年、何一つ不自由なく育てられた私ハ幸福でした。温き御両親の愛の下、良き兄妹の勉勵に依り、私ハ楽しい日を送る事が出来ました。そして、稍々もすれ、我儘になりつゝ、あつた事もありません。この間、御両親に心配を御掛けした事ハ、妹中、私が一番でした。それが、何の御恩返しもせぬ中に先立つ事ハ、心苦しくなりました。云ふ日本に於てハ、忠を尽くす事が孝行する事である。と云ふ日本に於てハ、私の行動を御許し下さる事と思ひます。

空中勤務者としての私ハ、毎日々々が死を前提としての生活を送りました。一字一言が毎日の遺書であり、遺言であつたので、高空に於てハ、死ハ決して恐怖の的ではないのです。この儘突込んで果して死ぬのだらうか、否、どうしても死ぬとハ思へません。そして、何か斯う突込んで見たい衝動に駆られた事もありません。私ハ決して死を恐れてハ居ません。寧ろ嬉しく感じます。何故なれば、懐しい龍兄さんに会へると信ずるからで、死生觀ハ持つて居ません。何となれば、死生觀そのものが飽まで死を意義づけ、価値づけやうとする事であり、不明確な死を怖れるの余りなす事だと考へたからです。私ハ死を通じて天国に於ける再會を信じて居るが故に、死を怖れないのです。死とハ天国に上る過程なりと考へる時、何ともありません。私ハ、私ハ明確に云へば、自由主義に憧れてゐました。日本が真に永久に続く為には、自由主義が必要であると思つたからです。之ハ馬鹿な事に聞えるかも知れませんが、それハ現在、日本が全体主義的な氣分に包まれてゐるからです。併し、真に大きな眼を開き、人間の本性を考へた時、自由主義こそ合理的なる主義だと思ひます。

戦争に於て勝敗を見んとすれば、その国の主義を見れば、事前に於て判明すると思ひます。人間の本性に合つた、自然な主義を持つた国の勝戦ハ、火を見るより明であると思ひます。日本を昔日の大英帝国の如くせんとする私の理想ハ、空しく敗れました。この上ハ、只、日本の自由、独立の為、喜んで命を捧げます。

人間にとつてハ、一國の興亡ハ、實に重大な事であり、宇宙全体から考へた時ハ、實に些細な事です。驕れる者久しか、宇宙全体の例へ通り、若しこの戦に米英が勝つたとしても、彼等ハ必ず敗れる日が来る事を知るでせう。若し敗れないとしても、幾年後かには、地球の破裂に依り粉となるのだと思ふと、愉快です。唯、早いのか、晚いかの差です。居る彼等も、必ず死が来るので、離れにある私の本箱の右の引出に遺本があります。開かなかつたら、左の引出を開けて釘を抜いて出して下さい。

で、ハ、大きい兄さん、清子始め皆さんに祈ります。御両親様へ

御両親様へ

良司より